

犬橇使いの神様 探険家・和田重次郎

和田重次郎

私たちは犬橇を使いアラスカを開拓した探検家・和田重次郎について学習し、その人となりや功績に迫りました。

和田重次郎物語

プシはアメリカに渡って住友になるぞな！

物

(一八七五) 〇 一月六日、現在の愛媛県西条市小松町に源八、セツ(後妻)の次男として生まれました。

(一八九一) 〇 生まれから十六年後、プシはアメリカに渡って住友になるぞな！という言葉を残し、松山を飛び出しました。

(一八九二) 〇 アメリカに密航。サンフランシスコに到着しましたが、北水洋捕鯨の補給船に売られ、三年間をクビン・ホイとして過ごしました。越冬のため停泊していたカナダのハーゼル島でイヌイットやその犬橇と出会い、交流を深めました。

(一八九四) 〇 補給船との契約期間を終え、サンフランシスコに戻りました。プシを連れて金鉱を発見しアラスカ史上に名高い「チルドラック」を引きました。

(一九〇三) 〇 タチナ・スタンベイトと引き起こしました。

(一九〇六) 〇 エスキモーのキングとなり、この頃、結婚し一人娘、日米子リヘレンワグシルペラを授かったと言われています。

(一九〇七) 〇 ハームの室内でマイル競争に出場、優勝を飾りました。

(一九一〇) 〇 アイデタロッド・トレイルの開拓を行いました。

(一九二二) 〇 日本のお金儲けがとりにたされ、身を隠すことを余儀なくされました。その間もカナダ北部を拠点に北極圏を犬橇で走り回りました。

(一九二〇) 〇 カナダで石油探査員として活躍し、石油シンジケートの代表も務めました。

(一九二四) 〇 ノームでジブラリアマが大流行し、一四〇〇人の住民が命を失った。全滅の危機にさらされますが、レオナルド・セハラと協力して全滅を免れました。

(一九三三) 〇 母セツが死去し、重次郎は母の死をその一年後に知り、その後、鉱山開発の傍ら、シカゴやアメリカ西部を回り、トレイル開拓や鉱山発掘の体験談を講演して歩きました。

(一九三七) 〇 滞在先のサンディエゴで倒れ、三日後に病院で死去しました。マウント・ホープの墓地に埋葬されました。

(一九三三) 〇 母セツが死去し、重次郎は母の死をその一年後に知り、その後、鉱山開発の傍ら、シカゴやアメリカ西部を回り、トレイル開拓や鉱山発掘の体験談を講演して歩きました。

(一九三七) 〇 滞在先のサンディエゴで倒れ、三日後に病院で死去しました。マウント・ホープの墓地に埋葬されました。

(一九三七) 〇 滞在先のサンディエゴで倒れ、三日後に病院で死去しました。マウント・ホープの墓地に埋葬されました。

(一九三七) 〇 滞在先のサンディエゴで倒れ、三日後に病院で死去しました。マウント・ホープの墓地に埋葬されました。

(一九三七) 〇 滞在先のサンディエゴで倒れ、三日後に病院で死去しました。マウント・ホープの墓地に埋葬されました。

(一九三七) 〇 滞在先のサンディエゴで倒れ、三日後に病院で死去しました。マウント・ホープの墓地に埋葬されました。



中岡 一美さん(2年)作

① 17歳でアメリカに渡る

周桑郡小松町(現在の西条市)に生まれた重次郎は、4歳の時父源八の死に伴い、母セツの実家である温泉郡素鷲村(現在の日の出町)に身を寄せます。17歳の時、アメリカに密航しサンフランシスコに上陸後、補給艦バラエナ号に乗り、3年間船室給仕として北氷洋で働きます。このとき英語や地理などの知識を修得しました。また越冬のために停泊していたカナダのハーゼル島でアラスカの原住民であるイヌイットやその犬橇と出会い交流を深めます。

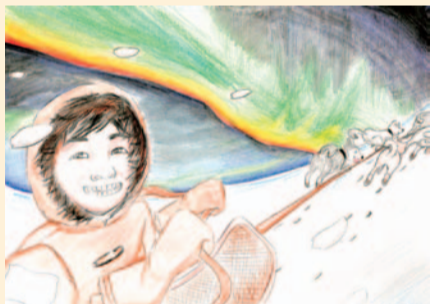
③ 思いやりの精神

1907年11月からの約半年に及ぶ北極圏の探検の途中で食料の尽きてしまった重次郎は、空腹の犬たちのために、極寒の地で身を顧みず、鯨油が染み込んだ自分のズボン脱ぎ、犬たちにかませながら探検を続け、やっと食事にありつくも、自分は手を付けず、犬たちに与えました。また重次郎は母をとて大切にしました。極寒の地で差別やさまざまな苦難に耐え、金鉱を探し求めたのも、ただただ母に楽な生活をさせたいという一心からでした。遠く離れた異国の地から終生、母を思い続け、手紙やお金を送り続けました。

② アラスカで金鉱を発見

北極圏の奥地を探検するなどし、犬橇使いと狩猟の名手となった重次郎。28歳の時、アラスカのフェアバンク스에서金鉱を発見し、アラスカ史上に残るゴールドラッシュ「タチナ・スタンピード」を引き起こしました。

「日の出の英雄 和田重次郎なり」



西野 莉菜さん(2年)作

地域の偉人をみんなで守っています



和田重次郎顕彰碑

重次郎が育った日の出町の石手川緑地には顕彰会により記念碑や胸像のほか、アラスカにちなんだ「日の出町オーロラ遊歩道」が設置され、地域住民による清掃活動などで大切に管理されています。

和田重次郎について授業で学びました



授業の様子

重次郎さんの目的に向かって諦めず最後までやり抜く心の強さと、自分を犠牲にしてまで犬や母を守り続けた勇気を改めて見習わなければいけないと感じました。



前列左から、村上 楓果さん、好岡 綾音さん、柳澤 幸太さん。後列左から、妹尾 紗香さん、中川 朱里さん、岸本 晴波さん(いずれも1年)

私たちの地域には「思いやりの精神」が根付いています

差別や飢えに耐えながら自分を犠牲にして犬や母に尽くした重次郎さんとはとても我慢強く、思いやりのある人だと思えます。その精神を私たちも見習って、「困っている人がいたら声をかける」「友達や家族を大切に」「優しさをもって人と接する」など日常生活から心がけていきたいです。

先人と文化の読み物教材

「語り継ぎたいふるさと松山百話 I・II・III」



第II巻に和田重次郎を収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができま